

学生と教員の見方



【アピールポイント】
散歩しながら街を眺める
ことが好きです。不動産
学部で学び始めて、人の
流れや街の特徴に目を向
けるようになりました。

て公園が整備されている」学生をよく見かけるし、そ
ういうより、「大きな公園
もそも「外で遊ぶ」とい
う中に住棟が立ち並んでい
ることが少なくなっているの
る」といったイメージの団
地も多い。
この原因は何か。三浦さ

【学生の見方&考え方】
(3年 三浦いりす)

大学の授業の一環で、神
奈川県にある高経年化した
郊外団地型マンションを見
学した。1970年代前半
に開発された団地で、約5
万㎡の敷地に20棟を超える
住棟が立ち並んでいる。
敷地内には、公園や広場
が点在している。こうした
公園や広場は、住棟から自
然と目が届く配置になって
おり、住民に見守られた安
全な環境になっていた。近
年は、犯罪や事故を踏まえ
外で遊ぶ子どもたちに対す
る安全性への配慮が不可欠
となっている。こうしたこ
とを踏まえると、団地内の

公園や広場は、子どもたち
っている公園や広場も失わ
れかねない。
一方で、国道の向こう側
には新築住宅が立ち並び、
子どもたちはたくさんい
る。つまり、周辺地域の子
育て需要は低くない。

ことが、大きなヒントにな
ると考える。また、団地内
の子どものだけでなく、こ
うした仕組みを介して団地外
の子どもたちとつながるこ
とが、あらたな団地の役割
になっていくのではないだ

境になっているといえる。
なお、毎年広場で開催さ
れる夏祭りには、近隣住民
や近隣の子どもたちも多
く訪れるそう。こうしたイ
ベントを介して、団地
が緩やかに
外へひら
いていく可
能性を感じた。

超えるが、こうしたゆとり
のある敷地と緑に恵まれて
おり、豊かな住環境が確保
されている。しかしその一
方で、建物の高経年化に伴
って居住者の少子高齢化が
著しく進んでいるため、団
地の公園には子どもの姿
は見られない。三浦さんは
こうした現状を報告してく
れている。

「つながり」を軸に
「子ども」に視点、強み生かす

しかし、団地内に住む小
学生は少数で、子ども会の
び込むためには、安全な遊
び場となる公園や広場とい
う強みをもっと打ち出し、
世代の入居もあり期待で
きない。団地内の子どもが
減り続ければ、遊び場とな
る仕組みをさらに育ててい
くか。

三浦さんの提案のよう
に、団地の内外の人が「な
んとなくつながる」中で、
子どもたちが外での遊び方
を学んでいければ、団地は
魅力的な「遊びのフィール
ド」に変わっていくと考え
る。少子高齢化が進む団地
の再生を、こうした「外で
遊ぶ」が変わってきいてい
る。室外であってもスマホ
やゲーム機で遊んでいる小
で考えるのも一案である。

性を感じた。

こうしたことを踏まえる
ろうか。

【教員の展開】
藤木亮介教授

1970年頃に建設され
た郊外団地型マンション
は、敷地にゆとりがある場
合が多く、「住棟にあわせ

高経年郊外団地型マンション③

減り続ければ、遊び場とな
る仕組みをさらに育ててい
くか。

合が多く、「住棟にあわせ